

# レクリエーション観確立に関する研究

(レクリエーション観の調査から)

吉田圭一 (武庫川女子大学)

キーワード： レクリエーションの認識、レクリエーション活動の認識

## I はじめに

レクリエーションという言葉が日常生活で使用されるようになって久しい。わが国の辞典類におけるこの言葉の最初の登場は、明治17年に刊行された『百科全書』にみることができる。しかし、レクリエーションという外来語は、このように長い歴史をもって使用された言葉であるにもかかわらず、現在もなおその意味が不明確な状態にあるといわざるを得ない。レクリエーションという言葉の内包ともいえる基本的な意味やその認識が、現在においても確立されないままであることは、レクリエーションの価値についても正当な評価がなされず、レクリエーションに関するさまざまな事柄の社会的地位の確立も十分にされない現象につながっている。

レクリエーションという言葉は、本来的に人間性の回復や元気の回復を意味する重要な言葉であると考えている。しかし、このように大きな意味を持つ言葉であるにもかかわらず、その価値が正当に評価されず、現在においてもさほど重要な言葉としての認識に至っていない状態にあることは、豊かな人生を目指すすべての人間にとって大きな損失である。レクリエーションという言葉が正当に評価されることへの工夫や、レクリエーションが人間社会にとって欠くことのできないものであるという認識の確立への取り組みとともに、レクリエーションの社会的地位の向上に対する努力を忘れてはならない。

近年、大学等の高等教育機関においても、レクリエーションという言葉キーワードとする学科目が、体育・スポーツ系以外の学科で設置されることが目につくようになってきた。このような現象は、レクリエーションの更なる発展と社会的認識の向上を願う立場からみると絶好の機会の到来であるといえる。しかし、このような好機も、現在のような曖昧なレクリエーション観のままでは、それを生かすことは不可能である。今こそレクリエーションの意味が確立されなければならないときであると思っている。

## II 研究の目的

本研究では①レクリエーションという言葉の普及の状態②レクリエーションという意味の理解の状態③レクリエーション活動として認識されている具体的活動④レクリエーションとレクリエーション活動の相違についての意識、などについての現状を調査した。その結果からレクリエーション観の確立に何が不足し何が必要なのかを明らかにすることを試み、レクリエーションの共通的な認識確立の方向性の検討を目的としている。

## III 研究の方法

### 1、質問紙によるアンケート調査

#### 〔1〕調査の内容

「性別」「年齢」などの属性と、「レクリエーション」や「レクリエーション活動」に関

する意識や認識について調査した。

〔2〕 調査対象

20歳から78歳までの不特定多数の男女294名。

〔3〕 調査方法

武庫川女子大学文学部人間関係学科の学生150名に一人あたり男性1名、女性1名の2サンプルを収集することを依頼した。回収率は98%である。

〔4〕 調査期間と調査場所

平成10年4月16日から4月22日

上記〔3〕による調査方法であるため、調査場所は特定できない。

2、集計と分析

アンケート集計ソフト「QUEST PACK」を使用し、各項目の単純集計とクロス集計及び統計的検定を行った。

IV 結果と考察

1、サンプルの属性

296名のサンプルの内、男女の比率はほぼ拮抗しているが、年代的な比率に若干偏りが見られる。特に60歳以上が最も多いが、これは60歳以上については上限を定めなかったことによるものである。

\*年齢は。 (表1)

選 択 肢	度数	%
男	141	48
女	153	52
合 計	294	100

\*年齢は。 (表2)

選 択 肢	度数	%
20から29	77	26
30から39	32	11
40から49	68	23
50から59	37	13
60から78	80	27
合 計	294	100

2、レクリエーションという言葉の普及

「レクリエーションという言葉を見たり聞いたりしたことがあるか」という設問について、94%の者が「ある」と答えている。また、「レクリエーションという言葉を使ったことがあるか」という設問では、「よく使う」と答えた者が7%であるが、「時々使う」の57%を加えると、64%の者が日常的にこの言葉を使用している状態を回答している。このような数値からみると、レクリエーションは言葉としてかなり普及した状態にあることが分る。さらに、「よく使う」「時々使う」の合計を年代別に見てみると、60歳以上が45.1%と最も低い、40歳台80.9%、50歳台78.4%とこの両世代が高い値を示している。

\*レクリエーションという言葉を見たり聞いたりしたことがあるか (表3)

選 択 肢	度数	%
ある	275	94
ない	19	6
合 計	294	100

\*レクリエーションという言葉を使ったことがあるか (表4)

選 択 肢	度数	%
よく使う	21	7
時々使う	167	57
使ったことがない	106	36
合 計	294	100

### 3、レクリエーションの意味についての理解

レクリエーションという言葉は、前述のようにかなり日常的に使用されていることが分かったが、その意味が共通の認識で使用されているかどうかことが最も重要な問題である。

「レクリエーションの意味は何か」という設問に対して四つの選択肢を設けた。46%の者が「楽しいことを通じての人間性の回復」という選択肢に答えている。このことは、レクリエーションという言葉が外来語であるにもかかわらず、半数近い人たちがレクリエーションの意味を語源的にも、かなり正確に理解していることを示している。「遊びなどの楽しい経験」や「遊びやスポーツなどの種目」など、経験や種目を意味する項目が上位にくるであろうという予測を覆す結果であった。このような結果から、レクリエーションが曖昧な言葉である状態はかなり変化してきたと理解できる。

なお、語源的にも望ましいと考えられる「楽しいことを通じての人間性の回復」という意味の理解について、有意水準5%では性別および年代別の有意差は認められないが、全体の値が46%の中で、20歳台が37.7%と最も低いことが気にかかる。20歳台は身体的に充実した年代であり、生きがいや人間性のあり方などについても、そのこと以上に興味や関心を向ける事柄が多様に存在していることからの数値であると推測できる。

\*レクリエーションの意味は何だと思うか (表5)

選 択 肢	度数	%
遊びなどの楽しい経験	99	34
遊びやスポーツなどの種目	53	18
楽しいことを通じての人間性の回復	135	46
その他	7	2
合 計	294	100

### 4、レクリエーション活動の認識

レクリエーション活動は、レクリエーションという目的を目指すための手段であり方法であると理解できる。前述のように46%の者が、レクリエーションを「楽しいことを通じての人間性の回復」という目的を表す意味でとらえているが、ここでの回答には少々混乱が見られる。人間性の回復を図るための楽しい活動は、すべてレクリエーション活動である、という認識が必要と考えられるが、今回の調査では「ハイキングやキャンプ」「スポーツの観戦や参加」「遊び」などに対する回答が多く、芸術や文芸、趣味や娯楽と表現される活動への回答は少ない。このことは、レクリエーションとレクリエーション活動が目的と手段の関係にあることへの理解がまだ十分でないことや、レクリエーションやそのための活動に対するイメージが、遊びや身体運動的・行動的なものに偏っていることを示している。有意水準5%では性別および年齢別の有意差は認められない。

\*レクリエーション活動だと思うものはどれか [複数回答] (表6)

選 択 肢	度数	%
遊び	156	16
映画・演劇・コンサートの観賞	76	8
スポーツの観戦や参加	167	17
家族団らんの食事	37	4
ハイキングやキャンプ	225	23
競馬・競輪	14	1

選 択 肢	度数	%
手芸・工作	41	4
囲碁・将棋	30	3
旅行	97	10
読書	15	2
魚つり	80	8
カラオケ	43	4
合 計	981	100

## 5、レクリエーションとレクリエーション活動の相違の理解

レクリエーションとレクリエーション活動の意味を、「同じだと思う」が22%、「別の意味だと思う」が40%である。設問の性格上「よく分らない」が38%あるが、この数値は今後の啓蒙活動への可能性を示すものとして好意的に受け止めている。

レクリエーションは人間性の回復という目的を表すものであり、レクリエーション活動は、そのための手段や方法を表す言葉である、との認識は前述した。レクリエーション観の混乱は、この二つの言葉を同じものとして理解し使用しているところに原因の一つがあると思われるが、この調査ではそれに該当する数値は22%にとどまっている。しかし「よく分らない」という38%の数値が、混乱をさらに助長させているとも考えられる。レクリエーションとレクリエーション活動を「同じだと思う」の22%に対する正しい理解への啓蒙活動が必要であることはいままでもないが、「よく分らない」と回答した38%への早急な啓蒙活動が、レクリエーション運動の発展に大きな意味を持っているのである。

なお、「レクリエーションという言葉を使ったことがあるか」の設問との間には、有意水準5%で有意差が認められた。「よく使う」「ときどき使う」と回答した者は「別の意味だと思う」という選択肢に、それぞれ「48%」「52%」と最も多く回答している。しかし「使ったことがない」と回答した者の内、「同じだと思う」が26%、「よく分らない」が54%、「別の意味だと思う」と回答した者はわずかに21%であった。レクリエーションという言葉をよく使う人ほど、その意味を正しく理解している割合が高いことを示している。

\*レクリエーションとレクリエーション活動は同じ意味だと思うか (表7)

選択肢	度数	%
同じだと思う	65	22
別の意味だと思う	118	40
よく分らない	111	38
合計	294	100

## IV まとめ

この調査では、「レクリエーション」という言葉がかなり認知されたものになっていることや、その意味が「人間性の回復」という語源的・目的の意味として徐々にではあるが理解が深まってきていることを知ることができた。レクリエーションに関する研究者や運動の推進者の努力が報われつつあることをうかがうことができた。

しかし、いくつかの問題点も明らかになった。一つは、レクリエーション活動の範囲や種類についての認識と理解が不足している点であり、いま一つは、目的を表す「レクリエーション」という言葉と、手段や方法を表す言葉の峻別への理解が不足している点である。この二つの問題点はお互いに関連しており、「レクリエーション」と「レクリエーション活動」が、目的と手段の関係にある別々の言葉であることが十分に理解されれば、二つの問題は同時に解決されると思う。何のためにする活動かが理解されれば、自ずからその範囲や種類も明らかになるのである。

目的と手段の関係を明確にする努力が不足していることが、現在の意味の混乱や社会的認知の低迷を招いていると思う。今後この点について、優先的課題としての認識と啓蒙への努力が必要であると考えている。